

「人口と食糧の将来展望」に焦点をしばっているのが特色である。

会議初日は、田中正己厚生大臣、安倍晋太郎農林大臣らの来賓を迎えての開会式にはじまり、大来佐武郎大会議長が『日本の進路と人口問題』と題する基調講演で、「人口と食糧のシーソー・ゲームの時期において、人口政策におけるわが国の知識と経験と資金力をアジアの人口の安定化に役立てる」役割を力説し、午後はそれを受けて、鈴木健二氏を司会役とし、5名の問題提起者、5名の専門家によるシンポジウム『日本の未来を見つめる——人口と食糧の接点』において、人口増加と食糧生産、南北問題、日本の食糧自給率、個人と全体の問題など、活発な討論が行なわれた。

第2日は、ラファエル・サラス国連人口活動基金事務総長が『激増する世界人口に食糧を——農業開発と人口増加』と題する特別講演で、「相互依存の世界における、人口の安全と福祉を確保するための、人口・食糧・社会の総合開発と国際協力」を呼びかけた。

これらの発言や討論は、午後の大会宣言（後述）に結実したが、つづいて山崎朋子氏の講演『底辺でいきな女性たちのこと』および国連広報センター提供の映画上映のあと、幕を閉じた。

大会宣言の内容は、1.食糧自給度向上にできる限りの努力をつくすこと、2.人口増加抑制に努力すること、3.国際協力が必要であること、4.「ほどほどの哲学」を持つこと、の4点を骨子とするものであるが、経済低成長時代における足を知る国民的節度の提唱が注目をよんだ。

なお、この会議を機会に発行された第2回日本人口会議資料専門委員会編「バランスの崩壊はいつ来るか——人口と食糧の行方」（昭和50年9月）は、人口と食糧に関する基礎統計を解説つきで要領よくまとめたハンドブックで、簡便な資料集としての意義を失なわない。  
(青木尚雄記)

## 第13回太平洋学術会議

第13回太平洋学術会議 (Thirteenth Pacific Science Congress of the Pacific Science Association) は、カナダのバンクーバーに在る University of British Columbia において、1975年8月13日(水)から30日(土)までにわたって開催され、本研究所黒田俊夫所長がこれに参加した。

今回の中心テーマは“Mankind's Future in the Pacific”であった。人口部門も4日間(19日~22日)にわたる sessions を持つ大規模なものであり、“Pacific Populations and Their Implications for Scientific Research”の主題の下に広範な人口 session があった。黒田は、20日に“Structural Change of Internal Migration and Demographic, Socio-economic Effects on Regional Population in Japan”を報告し、21日にはシンポジウムCの Implications and Controls of Population Growth のChairman をつとめた。

参考までに、Population Session Program を掲げると次のとおりである。

8月19日(火)

Theme Symposium A : The Population Growth and Its Impact on the Pacific Rim (Chairman : Sydney Goldstein)

A-1 Demographic Trends in the Pacific Countries

A-2 Population Growth, Fertility and Projections

8月20日(水)

Theme Symposium B : Internal Migration and Urbanization (Chairman : Mercedes Concepcion)

B-1 Internal Migration and Urbanization

B-2 Population Movement : Emigration and Immigration

8月21日(木)

Theme Symposium C: Implications and Controls of Population Growth (Chairman : Toshio Kuroda)

C-1 Population Policy and Family Planning Programs

C-2 Marriage and Childbearing

8月22日(金)

C-3 Population, Development and Resources

C-4 Population Genetics, Pregnancy and Health

C-5 Social Implications of Population Growth

(黒田俊夫記)

### エスカップ「人口予測に関する専門家会議」

アジア地域の急激な人口増加は、今後長期的にみて各国の経済、社会、環境に重大な問題をひき起すことが予測されるが、この状況に対応して、具体的に長期的な将来人口予測の諸方法を比較検討するとともに、その結果に対する有効な人口政策および開発計画を示唆することを目的として、国連アジア太平洋地域経済社会委員会（エスカップ）は1975年9月30日～10月6日、バンコクに人口予測と開発計画の専門家を招待して、表題のような会議を開催した。

おもな参加者は13か国から18名、ILO, WHO, 国連人口部, アメリカの Population Council, AID, センサス局から6名, リソース・パースン2名, 計26名であった。日本からは本研究所人口情報部長濱英彦技官が参加し、別にリソース・パースンとして京都大学東南アジア研究センター小林和正教授が参加した。

会議は4つの大きな議題をたて、そのなかをさらに小項目に区分した。各項目の題名は以下のとおりである。

#### I エスカップ地域各国における人口予測の評価と開発計画への利用

A エスカップ地域各国の現行の人口予測の検討と評価

B 開発計画に対する人口予測の利用

#### II 人口予測方法の分析

A 全国予測

B 国内地域予測

C 予測方法の諸問題

#### III 人口予測の具体例とその開発計画への適用の可能性

A エスカップ人口部による予測方法と基準設定

B 開発計画のために設計した予測技術

#### IV 結論と勧告

各項目ごとに discussion leader 2～3名が報告し、それに関連する background paper が参照された。これら paper の題名は以下のとおりである。

1. Review and assessment of existing population projections for Sri Lanka and their use in development planning : -T. Nadarajah
2. An evaluation of the method used in the Hong Kong population projection exercise : -B. N. H. Mok
3. Methodological problems and anticipated consequences of population projections for Japan: -H. Hama
4. Technical and conceptual problems in moving from population projections to planning forecasts : -Kim Dai-Young
5. Quasi stable population methods for adjusting age distributions in Indonesia : -A. Speare, Jr.
6. On the use of projections in Swedish planning models of demographic-economic social interrelation : -Hannes Hyrenius
7. Use of the LRPM model in making population projections for development planning : -Joseph Quinn